

論文内容の要旨

氏名	田中藍子	専攻名	土木工学 専攻	学籍番号	11TM322A
論文題目	橋梁景観における”かたち”と”いろ”の総合評価に関する一考察				
<p>本研究では、“かたち”と“いろ”の総合評価を行うために、“かたち”と“いろ”が景観にどのように影響しているのかを考察し、総合評価の方法を提案する。“いろ”の評価手法に村田が研究をおこなった3色配色設計を用い、“かたち”の評価手法にはサイコベクトルを用いることとする。また、評価の対象とする橋梁は、各自治体によって行われている景観賞を受賞した橋梁を用いる。</p> <p>“いろ”のみや“かたち”のみに注目した研究はこれまでも行われてきたが、総合的に評価する手法はいまだに確立されていない。しかし、橋梁の“かたち”と“いろ”は相互に影響しあっているはずなので、総合的に評価する手法の確立が望まれる。</p> <p>そこで、「背景と調和している」または「ランドマーク」と評価され景観賞を受賞した橋梁を含む景観画像に“かたち”と“いろ”の評価を行うことで、“かたち”と“いろ”が橋梁の印象にどう影響しているのかを把握する。</p> <p>評価の結果、“いろ”の評価値はランドマークの橋梁において、はなやかさが上昇することがわかった。また、“かたち”の評価値は、橋梁が「風景に調和している」場合、スレンダー感が大きくなり、「ランドマーク」の場合、造形感が大きくなることがわかった。</p> <p>以上のことから、橋梁を「背景と調和」させたい場合、橋梁の色彩の明度および、彩度を背景の色彩に近づけ、桁下空間を大きくする必要がある。反対に、「ランドマーク」として機能させたい場合、橋梁の色彩の明度を高くし、橋梁上部の例えば、斜張橋のケーブルの成分を大きくする必要があるということがわかった。</p> <p>これらのことを総合して用いることで、橋梁を「背景と調和している」または「ランドマーク」というコンセプトに合わせて、デザインすることができるといえる。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>					